

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371601184
法人名	杉友商事株式会社
事業所名	グループホームあすか
訪問調査日	平成 19 年 10 月 26 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 22 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月25 日

【評価実施概要】

事業所番号	2371601184
法人名	杉友商事株式会社
事業所名	グループホームあすか
所在地	名古屋市天白区高宮町1605-1 (電話)052-804-2111

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月22日

【情報提供票より】(19年7月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年1月30日						
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人				
職員数	19人	常勤	10人	非常勤	9人	常勤換算	6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2階～3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～45,000円	その他の経費(月額)	23,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名	
要介護1	3名	要介護2	9名			
要介護3	5名	要介護4	1名			
要介護5		要支援2				
年齢	平均	83歳	最低	68歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	安江内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一階が小規模多機能で、二階・三階がグループホームとなっている。ホームでは利用者の普通の生活が継続できることが重要と考えており日々の生活を大切に、思い思いに過ごしてもらいその生活の中に役割を見出し、それぞれに手伝ってもらっている。又個別ケアに重点を置いて、職員は利用者の表情を見逃さず意思の把握に努め、利用者の要望に沿ったケアを目指している。散歩は毎日出かけており、気候の良いときには弁当やおやつを公園で食べることもある。職員は利用者を人生の先輩として敬愛の気持ちを持って接しており、料理や歌を教えてもらっている。職員同士も信頼関係が保たれ、利用者、職員共に表情が明るいホームである。地域との交流も運営推進会議を通して深まっており、今後も地域に密着したグループホームとして益々の発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点として玄関が小規模用とグループホーム用とがあり、わかりにくいことだったので、表札を利用者に書いてもらって掲げている。又介護計画書に家族のサインがなかったことも指摘されていたので、日付とサインをもらうように改善している。他にも改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力を期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けることにより客観的な視点で評価・検討し、改善点の共有化を図り、より良いサービスを行うことができることを確認して、全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の出席者は、地域の代表・有識者・家族などである。討議内容は活動報告や要望や助言などである。会議によって地域との輪が広がったので、今後もさらに運営推進会議の機会を活かし、地域との密接な交流を深めていくことが求められる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月1回「あすか通信」を発行し、利用者の状況を写真で掲載したり、行事予定などを報告している。又家族の訪問時にはコミュニケーションを取り、家族との良い関係作りと情報交換に努めている。職員は利用者の家族もホームの家族という認識で接している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、祭りやコミュニティセンターの行事などに参加している。近隣の方とは散歩のときに声をかけて、交流のきっかけとなるよう努めている。又子育てサロンに毎月1回おじゃまして楽しいひとときを過ごしている。今後も地域の人々に認知症に対する理解を広める機会を意識的に作っていくように期待する。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「ゆったり・たのしく・のんびりと」である。利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で、安心して日々を過ごすことができるように理念をもとに支援している。	○	今後は地域密着型サービスとして、地域との連携を示す理念を加えられることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の各所に理念を明示し、ミーティングなどの際に理念を掘り下げるなど再確認を行い、具体的なケアにつなげるように努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しており、祭りの時にはホームとして手伝ったり、コミュニティセンターの行事としての体操にも参加して交流に努めている。	○	11月から「あすか情報」を町内へ回覧してもらうことに決まっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の趣旨を職員全体で確認あっている。前回の評価結果についても職員で共有し、計画的に改善を検討中である。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の実施によって、民生委員との連携がし		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施によって、民生委員との連携がとれて今では毎日のように顔を出してもらっている。運営推進会議は、ホームの現状を報告し、意見を伺う重要な場ととらえている。又出された意見は職員間で共有している。	○	今後は運営推進会議の参加メンバーの輪を広げる方向で検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者とは定期的に連絡、連携を図って、行き来するような関係作りを行なっている。又色々な情報を得るように心がけ、ホームの向上につなげるように取り組んでいる。	○	従来の行政とのつながりを更に深め、運営推進会議等も十分活用しながら地域における介護サービスの積極的な連携の取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「あすか通信」を発行し、利用者の様子がわかるように写真の掲載と行事報告・予定などを報告している。健康状態の変化はその都度電話連絡をしている。金銭管理は自分で出来る人は3名ほどいるが、その他の利用者は立替えて管理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族もホームの家族という視点で接していて、家族の訪問時には利用者の状況報告をして、必ず家族とのコミュニケーションを取り、話しやすい関係や雰囲気作り心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員やパート職員の異動も極力ないようにして顔なじみの関係でケアを行い、信頼関係を持っている。職員の離職を防ぐことができるように日頃からチームの大切な一員であるという理解を促している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自分の業務目標を3ヶ月ごとにたてて、フロア会議の場で発表している。外部研修に行った場合は出勤扱いで対応している。又研修を受けた人は報告書を提出し、他の人にも回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームの管理者の交流会に参加し、意見交換や交流する機会を持っている。	○	他のグループホーム職員と交流する機会を持ち、互いに勉強会や意見交換を通して、悩みの解消を図ったりサービスの質の向上につなげることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は居宅介護の関係者から紹介されたり、直接相談に見える人もいる。希望者は1週間のおためし期間のあと入居できるようになっている。入居前には本人・家族が何回も訪問し見学するなどグループホームの雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩である利用者に敬愛の念を持ち、共に過ごし支えあいながら料理や掃除の仕方を教えてもらい、一緒に行なっている。利用者の表情を見逃さないようにしてそれぞれの個性を尊重しながら、利用者が活躍できる場を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員は気づきを申し送りノートに書くことにしている。朝必ず読むようにして状況を把握し、本人にできるだけ寄り添い、日々の表情や行動や会話の中から、一人ひとりの思いや希望を見つける努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に2回の会議や、生活見直しシートなどで、利用者の言葉や、家族の意見、職員の気づきなどを反映し、その人らしい生活を常に念頭におき、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。また急な変化には、緊急会議を開き、本人、家族や必要な関係者、職員が話し合い計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階に小規模多機能のデイサービスがあり、運動会、バーベキュー等の行事に参加したい希望者は自由に参加できる。お試し入居時、空きベッドがない時なども利用できるなど連携がとれている。通院介助はほとんどホーム側で対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に、引き続き通院の場合は、管理者が同行している。3階には2名おり、月に2回の外出として、通院が楽しみにもなっている。	○	検討中の、歯科医の訪問診療は、早急に取り組まれることを期待している。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と連携、日々の変化、状態報告を密にしている。本人が安楽な生活を保つことが出来ることを第一に考慮して、状況次第では本人、家族、スタッフ等と、意思確認し、話し合いをしている。	○	重度化した場合も対応できるよう、看護師スタッフの増員など、取り組みを期待したい。
IV.その人らしい暮らしをつづけるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりを尊重した、さりげない言葉かけで接しており、誇りやプライバシーの保護に留意している。 個人情報の取り扱いについては、理解し、周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、その日したいことを優先して、過ごすことができるように臨機応変に対応している。このことは、職員間でも常に検討はしていることで、スムーズに事を運ぶことができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	書の得意な利用者の毛筆メニューが、掲示されている。日曜日はフリーメニューにしている。利用者と職員が、一緒になって食事の準備や食事の片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日午後いつでも入浴できるが、利用者の希望に合わせている。一番風呂がいい希望者が二人おり、職員間で話し合いの結果、一旦湯を抜いて一番風呂を二度用意している。	○	入浴拒否の利用者については、どうしたときにいやなのか、拒否の理由をスタッフで話し合い、それに沿った支援をしている。夜間の入浴についても、体制を整えて検討していくことを望んでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書の好きな人、手芸の好きな人、それぞれの希望に沿って日々を自由に楽しんでいる。食事の支度、後片付けなど利用者は自主的に行っており、職員は一人ひとりにあった楽しみや役割をみつけて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、日用品の買い物、手作りのおやつや弁当を持っての外出など、常に一人ひとりのその日の希望に沿った外出を支援している。	○	近所のお寺での音楽会やコミュニティセンターの体操参加、子育てサロン訪問等の継続を期待している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の同意が得られないため、玄関は施錠している。職員は鍵をかけることの弊害についての理解は十分にできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回実施しており、1回は消防署立会いのもと行われた。近所の方も参加し、協力を得ている。夜間訓練も10月に実施した。	○	今後は自治会会議に参加して、災害の連絡網を作ってもらう予定である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、生活の流れのなかで、特に注意をし、一日の量をトータルに把握し、夜間は居室にペットボトルをおいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は南向きで明るく、道路に面しているが、不快な音は感じられない。食堂に隣接して和室があり、気の合う人同士でゆったり、過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お孫さんの写真、ご自身の描かれた絵、仏壇など、これまでの生活で、慣れ親しんだものが置かれ、これまでの生活のありようが感じられる。衣服管理がうまく出来ない利用者には、洋服ハンガー棚の利用で選べるようにして、しまいこまないようにしている。		